

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 12 月 4 日作成)

小委員会名	構造工学論文集編集小委員会	主 査 名：吹田啓一郎 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会	委員長名：緑川光正
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>・1 編につき 3 名による査読付き論文集『構造工学論文集』を毎年 1 回刊行し、 登載論文を中心としたシンポジウムを開催することにより、産官学各界の研究者・技術者に 学術交流・技術交流の場を提供し、構造工学の一層の発展を図る。</p> <p>初年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.59B』の刊行 第 59 回構造工学シンポジウムの開催</p> <p>2 年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.60B』の刊行 第 60 回構造工学シンポジウムの開催</p> <p>3 年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.61B』の刊行 第 61 回構造工学シンポジウムの開催</p> <p>4 年度：査読付き論文集『構造工学論文集 Vol.62B』の刊行 第 62 回構造工学シンポジウムの開催</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無 (構造工学にかかわるあらゆる分野が論文の対象となるため、各運営委員会主査 を委員に配するなどして、分野構成には特に考慮している)。	
	主査 吹田啓一郎 (京都大学) 幹事 稲山 正弘 (東京大学)、護 雅史 (名古屋大学)、前田 匡樹 (東北大学)、 元結正次郎 (東京工業大学)、和田 章 (東京工業大学名誉教授) 委員 大崎 純 (広島大学)、五十田 博 (京都大学)、河野 昭彦 (九州大学)、 塩原 等 (東京大学)、高田 毅士 (東京大学)、多田 元英 (大阪大学)、 時松 孝次 (東京工業大学)、緑川 光正 (北海道大学)、宮本 裕司 (大阪大学)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2014 年度予算	350,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kouzou/s11/

項 目	自 己 評 価						
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)						
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 『構造工学論文集 Vol.60B』						
講習会							
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	1. 第 60 回構造工学シンポジウム <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">①特別講演会「構造の力と形のコントロール」</td> <td style="width: 30%; text-align: right;">参加者数 418 名</td> </tr> <tr> <td>②建築・土木合同パネルディスカッション 「多様な要求性能に対する構造デザインの可能性」</td> <td style="text-align: right;">参加者数 131 名</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">参加者数 104 名</td> </tr> </table>	①特別講演会「構造の力と形のコントロール」	参加者数 418 名	②建築・土木合同パネルディスカッション 「多様な要求性能に対する構造デザインの可能性」	参加者数 131 名		参加者数 104 名
①特別講演会「構造の力と形のコントロール」	参加者数 418 名						
②建築・土木合同パネルディスカッション 「多様な要求性能に対する構造デザインの可能性」	参加者数 131 名						
	参加者数 104 名						
大会研究集会							
対外的意見表明・パブリックコメント等							
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. すべて滞りなく達成した。						
委員会活動の問題点 ・課題	1. 主催者である日本学術会議土木工学・建築学委員会並びに共催の土木学会構造工学委員会・論文集編集小委員会と、今後とも十分な事前調整が必要。 2. 建築分野の投稿論文題数増加に向けた対策。 3. 東京周辺における予算に適した会場の確保。						